

北海道豆本 series2

# 爪 句

TSUME-KU

@

## 札幌の花と木と家

著者

北海道大学名誉教授  
爪句結社「秘境」社主

青木 曲直



北海道豆本 series2

# 爪 句

TSUME-KU



# 札幌の花と木と家

著者

北海道大学名誉教授  
爪句結社「秘境」社主

青木 曲直

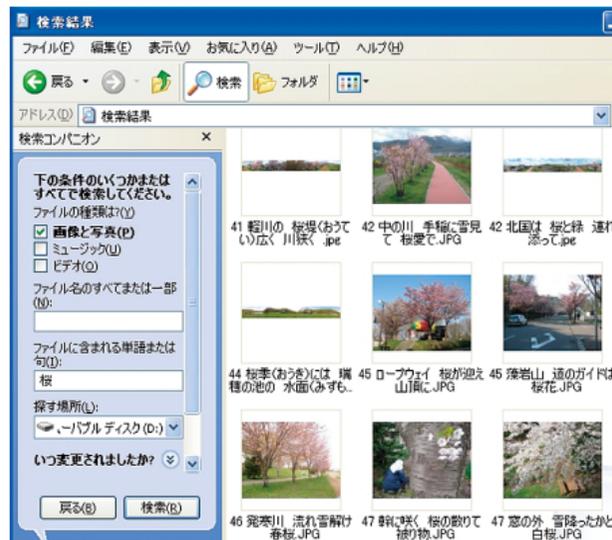
## 爪句とは何か—その2

本爪句集の前書『爪句@札幌&近郊百景』で「爪句とは何か」の解説を行っている。爪句は写真データの整理法につけられた用語“thumbnail”からの造語である。しかし、俳句とどこが違うのか、の質問も受ける。そこで爪句の解説の続きとして書いておく。

爪句は写真につけられた五・七・五のファイル名でもある。ファイル名であるから、検索を意識している。従って、検索に利用するキーワードを詠み込むことを心がけている。例えば、本書にも一章を設けている「桜」のキーワードが詠み込まれたファイル名の画像を検索の例で考えてみる。パソコンの検索機能を利用した検索結果は、画面1に示したような写真列が表示される。このような表示画が“thumbnail”と呼ばれている。

そのなかで川に関連した写真を探そうと思えば、「桜」に「川」のキーワードを加えて検索す

ると検索結果の画面2に示す写真が得られる。このように、検索という観点からはキーワードを詠み込むことが爪句の特徴となる。前述の例でいえば、写真の対象「桜」と場所「川」のキーワードを意識して爪句を作っている。



画面1 キーワード「桜」での検索



## 画面2 キーワード「桜」、「川」での検索

同様に対象が花であれば花の名前を、彫刻のある風景なら彫刻の作品名を、建物であればそれがある場所を、という具合に写真とキーワードの対応付けを考える。しかし、これをやり過ぎるとキーワードの羅列になってしまい、句作の面白味が無くなってしまいます。検索に重きを置くか、句作の面白さを追求するか、爪句作者の好みとなる。

キーワードを意識した分、俳句での約束事から

自由にするのも爪句の特徴である。例えば、季語を詠み込むことには気に留めない。写真を見れば季節が分るからである（その代償として季節をキーワードにする利点を失うことにはなるけれど）。同様に、写真を見れば自明のことを重複して爪句に読み込まないようにする。写真と爪句を互いに補完させながら作品に仕上げる目的のためである。

爪句が写真ファイルの整理や検索を意識しているとはいえ、単なるファイル名から俳句の領域に入り込む新しいジャンルの創作活動を目指している。そこには、写真の内容の説明に留まらず、写真のみでは表現できない言葉での表現をいかに織り込むかの新しい文芸の創造に通じるものがあると信じている。パソコンやデジタルカメラがこれほど普及した現代、創作活動も新しいものが生み出されてくる機運にあり、爪句はその一つのジャンルであると位置づけている。

# 爪 句 目 次

札幌の花と木と家

爪句とは何か—その2

あとがき

## 春の花

- 1 スノウドロップ
- 2 福寿草
- 3 水芭蕉（中央区北大植物園、手稲区星置緑地）
- 4 エンレイソウ
- 5 クロッカス
- 6 スミレ
- 7 エゾエンゴサク
- 8 ムスカリ（南区滝野）
- 9 クリスマスローズ
- 10 ヒマラヤユキノシタ（小樽市中野植物園）

## 花の印象

- 11 フウロソウ [風露草]
- 12 クモマグサ [雲間草]
- 13 クレマチス
- 14 クロユリ [黒百合]（北区北大構内、小樽市桂岡町）
- 15 シャクヤク [芍薬]
- 16 ハマナス
- 17 バラ
- 18 ハナショウブ [花菖蒲]
- 19 タチアオイ [立葵]
- 20 コスモス [秋桜]

## 花の連想

- 21 アリウム
- 22 サギソウ [鷺草]
- 23 カワラナデシコ
- 24 桔梗
- 25 ポピー [ヒナゲシ—雛罌粟]
- 26 ヒヤシンス
- 27 オダマキ [苧環]
- 28 ジギタリス
- 29 タイツリソウ [鯛釣草]
- 30 ヒモゲイトウ [紐鶏頭]

## 花のある風景

- 31 タンポポ
- 32 芝桜
- 33 チューリップ（南区滝野）
- 34 牡丹
- 35 ヒマワリ [向日葵]
- 36 ラベンダー（東区丘珠町）
- 37 ユリ（北区百合が原）
- 38 ガクアジサイ（西区平和）
- 39 睡蓮（東区丘珠町、中央区道庁池）
- 40 ゼラニウム

## 桜

- 41 軽川の桜並木（手稲区前田）
- 42 中の川の桜並木（手稲区前田）
- 43 旭山記念公園（中央区界川）
- 44 瑞穂の池（江別市野幌森林公園）
- 45 藻岩山ロープウェイ駅（中央区伏見）
- 46 琴似発寒川（西区発寒川緑地）
- 47 ソメイヨシノ
- 48 山桜
- 49 八重桜
- 50 造成果樹園の桜（西区西野）

## 黄葉・紅葉

- 51 北大植物園（中央区北大植物園）
- 52 北大構内イチョウ並木（北区北大構内）
- 53 宮丘公園（西区西野）
- 54 散歩道
- 55 テクノパーク（厚別区下野幌）
- 56 野幌森林公園（江別市野幌森林公園）
- 57 窓の外
- 58 庭の紅葉
- 59 黄葉
- 60 落ち葉

## 木のある風景

- 61 恵迪寮跡のこぶしの花（北区北大構内）
- 62 北大原始林（北区北大構内）
- 63 梅の花木
- 64 永山記念公園の木（中央区北2条東6丁目）
- 65 ライラックの花木（豊平区天神山緑地）
- 66 豊平峡ダム岩島の一本木（南区豊平峡）
- 67 リンゴ並木（豊平区美園環状通）
- 68 日の出
- 69 北大平成のポプラ並木（北区北大構内）
- 70 北大ポプラ並木（北区北大構内）

## 建物

- 71 北大交流プラザ（北区北大構内）
- 72 北海道立文書館別館（中央区北1条西5丁目）
- 73 サッポロビール博物館（東区北7条東10丁目）
- 74 琴似駅北口レンガ館（西区琴似八軒）
- 75 自衛隊サイロ隊舎（南区陸上自衛隊真駒内駐屯地内）
- 76 北海道神宮（中央区宮ヶ丘）
- 77 東本願寺（中央区南7条西7丁目）
- 78 北方自然教育園（南区白川）
- 79 三越デパート（中央区南1条西3丁目）
- 80 ススキノの建物（中央区すすきの）

## 建物とパノラマ

- 91 JR 駅西コンコース
- 92 JR 札幌駅南口広場（中央区北5条西3丁目）
- 93 大同ギャラリーのテラス（中央区北3条西3丁目）
- 94 本郷新記念札幌彫刻美術館（中央区宮の森）
- 95 彫刻の道（中央区宮の森）
- 96 ビルと滑り台（中央区大通西8丁目）
- 97 北海道立近代美術館庭（中央区北1条西17丁目）
- 98 知事公館（中央区北1条西16丁目）
- 99 北大総合博物館（北区北大構内）
- 100 eシルクロード（中央区北5条西2丁目）

## 古い家

- 81 琴似屯田兵村兵屋（西区琴似2条5丁目）
- 82 北大植物園博物館（中央区北大植物園）
- 83 清華亭（中央区北7条西7丁目）
- 84 旧永山武四郎邸（中央区北2条東6丁目）
- 85 エドウィン・ダン記念館（南区真駒内泉町1）
- 86 旧小熊邸（南区伏見5）
- 87 秋野総本店薬局（中央区南1条西1丁目）
- 88 浅野邸（中央区南5条西8丁目）
- 89 ピリカコタン（南区小金湯）
- 90 何でも屋（南区滝野）



# 1 スノウドロップ

春の花



冬なごり

スノウドロップ

雪しずく雫



消えた雪 スノウドロップに 姿変え

ヒガンバナ科の花で別名マツユキソウ（待つ雪草）とも呼ばれている。スノウドロップはエデンの園からアダムが追放された時雪が降り、天使が雪に息を吹きかけて花に変えて、悲嘆にくれるイブに春の到来を告げて希望を持たせた言い伝えが

ある。ここから花言葉は「希望」、「慰め」となる。春先、雪の消える頃、消えた雪が姿を変えたように咲き出すので、マツユキソウはユキドケマツソウの方が合っていると思える。多分その意味での別名なのだろう。



福寿草 春告げ花の 一番手

キンポウゲ科の多年草でガンジツソウ（元日草）とも呼ばれている。北海道では四月の半ば頃から雪が解け、雪の下にあった落ち葉の布団を持ち上げるようにして咲き出す。黄色い花びらはコーティングした紙を切り抜いて作ったようにピ



福寿草 日光受け取る ソーラーパネル

カピカに輝いて見えることがある。それは金属に近い感じがして、花びらで日光を受けている様子はソーラーパネルを開いて太陽エネルギーを受けているのを連想する。福寿草の名前に反して、毒を含む花なのは意外である。

### 3 水芭蕉

(中央区北大植物園、手稲区星置緑地)

春の花



ゆうていこ

幽庭湖 水芭蕉咲き みどりの日

北海道の春は水芭蕉情報が欠かせない。新聞やインターネットに水芭蕉の名所や見ごろの日に関する記事や書き込みがあり、それを参考に出かけてみる。北大植物園の幽庭湖と呼ばれる池は都心部で水芭蕉が見られる場所で、市民に無料開放



団地横 湿地の記憶 水芭蕉

のみどりの日を狙って見に行く人も多そうである。都心から離れた星置緑地では、湿地を造成して団地を造ったため、団地に接して残された湿地に水芭蕉の群生を見ることができる。早朝に木道から見る水芭蕉は、少し寒く感じる北国の春を告げている。

## 4 エンレイソウ

春の花



花も葉も 三つに割れたり エンレイソウ

エンレイソウ（延齢草）は北大の校章としてデザイン化されている。エンレイソウにはエンレイソウ、オオバナノエンレイソウ、ミヤマエンレイソウなどがあり、単にエンレイソウと呼ばれているものは花が写真にあるように赤紫色である。北



校章は この花借りて ロマンの地

大寮歌「都ぞ弥生」に歌われているエンレイソウは「雲ゆく雲雀に延齢草の 真白の花影さゆらぎて立つ」とあり、校章は白い花のオオバナノエンレイソウである。かつて北大の恵迪（けいてき）寮があった「恵迪の森」にも自生して咲いている。

## 5 クロッカス

## 春の花



花サフラン 牡丹の花芽 待たず咲き

アヤメ科のクロッカス属の総称である。同じアヤメ科で秋に咲くサフランに対応して春サフランあるいは花サフランの別名もある。クロッカスは雪が解けるのを待っていたかのように一斉に咲き出す。集団になって咲いているかと思うと、離れ



クロッカス  
束になったり  
離れたり

てぽつんと咲いていたりする。クロッカスが咲き出すと、北国の本格的春の息吹を感じる。花が目立ち、葉も茎も遠慮していて、観賞用の花そのものである。花の大きさに比べて茎が細く、茎が折れて花が地面に倒れていたりする。



パンジーが 客迎えたり 峠茶屋

植物の分類には科がありその下に属がある。スミレの場合、スミレ科スミレ属となるが、スミレは種類が多くて16属850種類もあるとのことである。こうなるとスミレを見てそれが何というスミレかを当てるのは専門家でなければ無理であ



春深き 色の濃くなり 花も葉も

る。そこで、違った種類でも一緒にたにスミレと言っていて、聞く方もそれに異を唱えることはない。それにしても春にはスミレがあちらこちらに顔を出してくる。盤溪峠のワイナリーを訪ねた時もそこにはスミレが置かれてあった。

## 7 エゾエンゴサク

春の花



花よりは 魚に見えて エンゴサク

この花の名前は一度聞いても覚えられない。しかし、和名の漢字は蝦夷延胡索で、蝦夷地に生える漢方に用いられる植物“延胡索（えんごさく）”の根の部分に似ているのでこの名前があると知ると、記憶するのに役立つ。北海道以外では高山植



も いず  
萌え出る エゾエンゴサク オオウバユリ

物に分類されているそうであるけれど、春先にはそこら辺の野山で見かける花である。ケマンソウ科キケマン属の花で、色は青紫である。大きな葉のオオウバユリには負けじと、春の野に可憐な花の群生を見せてくれる。



ムスカリの 花は実に見え たわわ咲き

ユリ科ムスカリ属の花である。花の名前はギリシャ語のムスク(麝香(じゃこう))からきている。ユリ科であるので球根を持ち毎年春に咲き、花はあまり開かずブドウの実のようにも見える。丈夫な花のようで、放っておいても庭に咲くものは年



ムスカリが 花領域を 囲い込み

毎に増えていくようである。色が青紫色の背の低い花なので、黄色や赤の背丈のある花の周りに植えると中の花が目立って見える。滝野すずらん丘陵公園でこのような配置でムスカリが植えられているのを見たことがあり、見事な色の配色だった。

## 9 クリスマスローズ

## 春の花



ゆきおこ  
雪解けて 枯葉突き上げ 雪起し

キンポウゲ科の花で、クリスマスの時期に咲くローズ（バラ）の意味で命名されたといわれている。クリスマスの時期に咲く品種もあるのだろうけれど、庭のものは春先に咲く。寒さに強く、残雪を持ち上げて咲く場合もあり「雪起し」の別名



花重き  
クリスマスローズ  
下を向き

がある。雪起しほどではないにせよ、雪解け直後に枯葉を突き破るようにして茎を伸ばし、下向きの花を咲かせているのが目につくと、春の花の季節の到来である。花言葉は「慰め」で、花の雰気は合っている気もする。

## 10 ヒマラヤユキノシタ

(小樽市中野植物園)

春の花



朝日浴び Red 増したり 雪の下

ユキノシタ科ベルゲニア属の花で、名前の通りヒマラヤが原産地である。園芸種として明治に渡来した花で、札幌でも庭先で見ることができる。肉厚の緑の濃い葉に鮮やかなピンク色の花で、いかにも外来種という感じがする。加えて、花の少



この季節 花の少なき 植物園

ない時期に花が集まって咲くので目立つ花である。小樽の中野植物園という風変わりな私設植物園を見学したとき、春先のこともあって園内に花の姿が無かったところに、この花を見つけたのが印象に残っている。



ふうろそう  
風露草 紙で作ったかちぢれ花

フウロソウ科のフウロソウ属の花で宿根草である。風露草が和名で一方ゲラニウムとも称されていて、ゲンノショウコが同じ仲間である。ひとかたまりで咲いていて、風露草のブーケを庭に置いてあるように見える。園芸種の姫風露草というの



ふうろそう  
桜紙 朱線を入れて 風露草

があるけれど、風露草と同じ仲間ではない、と記述されていても詳しいことは分からない。花びらが紙でできているような印象で、その紙に朱で模様が入っていたりする。1mを越す雪の下にあって毎年咲き続けるので、寒さには丈夫な花である。



買い求め どこに根づくか くもまぐさ 雲間草

ユキノシタ科ユキノシタ属の多年草で、高山植物でわが国の古来種である。花屋で売っているのは園芸種で、西洋雲間草とも言われている。簡易ポットで売られている花を見るとつい手が伸びてしまう。しかし、庭に植え換える段になると、日



植え換えて 心細げな くもまぐさ 雲間草

当たりや空き地の具合、さらに他の花とのバランスなんかを考え出すとなかなか面倒である。植え換えた時にはうまく根づくかと気にしているけれど、そのうち忘れてしまっている。そのような花が幾種類あることやら。



鉄線の<sup>つる</sup>蔓架り無く下に咲き

「蔓性植物の女王」と呼ばれるクレマチスは花の優雅さに対して、「鉄線」の異名もある。確かにクレマチスの蔓は細く枯れたように見えるけれど鉄線のように強い。風車の別名もある。蔓性であるため、近くに蔓が絡みつく木等がないと、蔓



朝日から 隠れるように 白々と

は地を這って花が地面に咲いてしまう。花は形や色で色々な種類のものがある。庭木の幹辺りに白い大輪の花が咲くと遠目にも見事である。花が群がって咲くものも見ごたえがある。キンボウゲ科センニンソウ属の花である。

## 14 クロユリ [黒百合]

(北区北大構内、小樽市桂岡町)

# 花の印象



### 学府内 黒き神秘の花復元

かつてクロユリが北大構内に自生していたのを再現しようと、2006年、学生らの手によってクロユリが第一農場の脇に植栽されて話題となった。学生らは北大の絵画サークル「黒百合会」に所属していて、会の名前がこのプロジェクト発案の基

### 黒百合は 薬用になり 薬科大

になっている。会の名前は北大に勤務し油絵も嗜(たしな)んだ有島武郎が命名している。花をつけたクロユリの写真を撮ってきたけれど、多くの花は下を向いていた。北海道薬科大学の薬用植物園にもクロユリが栽培されていて写真に収めている。



しゃくやく  
芍薬を 蟻も愛でるか 五六匹



芍薬の 向く方向が 陽の通路

「立てば芍薬座れば牡丹」と並び称される花で、どちらもボタン科の花である。牡丹とこの美人の比喩は、芍薬は茎が真っ直ぐ伸びその先に花をつけるのに対して、牡丹は枝が横に別れ、その途中で花をつけるためである。芍薬は草で牡丹は樹木

の違いもある。中国では牡丹は「花王」、芍薬は宰相の意味で「花相」と呼ばれている。シャクヤクは生薬にも用いられて、風邪薬の葛根湯（かっこんとう）などに調合されている。豪華な花で、この花が咲くと辺りは華やいだ雰囲気となる。



一夜花 仲間の散りて 追う我が身

北海道を代表する海浜の花で、群生して花と実をつけている景観は見事である。バラ科バラ属の日本の古来種で、海外では Japanese Rose と呼ばれている。バラの原種であるため、ハマナスと他のバラの交配で新種が作られている。ハマナス



新品種 シロバナハマナス 人目惹き

(浜茄子)の言葉は、その実が梨の実に似ているのでハマナシと呼ばれたものが訛ってこの名前になったといわれている。一日花とも一夜花ともいわれていて、花が咲いている時間は短いけれど、次々に花をつけては散っていく。



清楚感<sup>かげ</sup> 翳ありてこそ 白きバラ

庭に花を植えるとき最も多く選ばれる花ではな  
 かるうか。この花には多くの歴史上のエピソード  
 や言い伝えがある。ローマの昔から人間界と関  
 わってきた花で、ローマ人は秘密の話は一輪のバ  
 ラの花の下で行ったことから「バラの下で」は秘



背景に 青空ありて バラの花

密厳守の合言葉になっている。イギリスでは王位  
 継承を争って、ヨーク家とランカスター家の間に  
 「バラ戦争」が起こり、その副産物としてバラは  
 英国の国花になっている。原種のオールド・ロー  
 ズは素朴、改良された園芸種は優雅である。



花菖蒲 いやアヤメかな 虹の花

「いずれがアヤメかカキツバタ」と美人の姉妹のようで甲乙つけ難い喩えに出てくるこれらの花にハナショウブが加わると、素人には区別が難しい。ネットにも見分け方の解説が載っているけれど、自分が撮った写真の花がどれなのか断定でき



夏  
近  
き  
上  
着  
を  
脱  
い  
で  
下  
着  
見  
え

ない。ハナショウブは野生のノハナショウブ（野花菖蒲）を原種にして改良が加えられている。アヤメは学名アイリスがつけられていて、アイリスはギリシャ語で「虹」を意味し、ゼウスの妻ヘラの侍女の「虹の女神」の名前でもある。

## 19 タチアオイ [立葵]

## 花の印象

タチアオイ  
話すが如く  
花揺らし



この花が街路樹の根元に咲いていたりすると、その背の高さで人目を惹く。アオイ科の花でハイビスカスと同じ仲間である。日本には薬用植物として渡来していて、育て方で宿根草にもなり、一年草としても観賞もできる。背が高いので（1m



花の群れ  
全てに届く  
視線無し

～3m）花が目の前にあったりして、花と対話している雰囲気である。背が高いせい、群れた状態で咲かせて、風折れしないようにするのか、と推測しているけれど、高く伸びた花の群れには圧倒されそうになる。

盛りあり  
枯れ残りあり  
夏の日



メキシコ原産のキク科の花である。和名は秋桜で、花の形が桜に似ていて秋に咲くことから命名されている。日本各地の風土に溶け込んでいるようで、雰囲気は日本古来の花のようである。秋の花の代表ではあるけれど、結構夏から咲いている。



コスモスの 咲く夏の朝 秋の息

さだまさし作詞作曲で山口百恵が歌っていた「秋桜（コスモス）」があり、「薄紅の秋桜（コスモス）が秋の日の 何気ない日溜りに揺れている」のフレーズから始まっている。コスモスにかけて嫁ぐ前の娘の情感を歌っている。



アリウムは 三人娘 人目惹<sup>ひ</sup>き

ユリ科に属しネギやタマネギの仲間でもあり、ギガテウム<sup>ギガテウム</sup>の別名がある。アリウムの名はニンニクを指すラテン語で「花ネギ」の和名もある。ネギの名前がついているだけあって、ネギの茎部分が高く伸び、その先にボールのような花をつけ



枯れアリウム  
夏空を背に  
朝花火

る。他の庭に咲いているのを見て、面白い花だと球根を購入して庭に植えると毎年花をつける。枯れると葱坊主とも表現できる実の部分が放射状に並んで、あたかも夜空に展開する花火を昼間に見ているように思える。

鷺草さぎそうの  
羽ばたくのかと  
じつと待ち



さぎぞう 鷺草の たが 名に違わず 飛ぶ如し

ラン科の多年草で、花の形が飛んでいる白鷺に似ていることからこの名前がついている。しかし、花がどうして飛ぶ鳥の形をしていなければならないのか、不思議である。湿地に生える野生のものは背が高く、一方鉢植えのものは背が低い

で、スペースも取らず楽しめる。鉢植えのものを貰って一年目はその姿形を觀賞していたけれど、二年目は放っておいたら花は咲かなかった。鳥籠で飼っている鷺に餌をやるのを忘れて、鷺が死んでしまったみたいなおものである。



触手出し カワラナデシコ 目を惹<sup>ひ</sup>きて

ナデシコ科の花でヤマトナデシコ（大和撫子）の別名もある。大和があると唐（から）もありカラナデシコ（唐撫子-別名セキチク-石竹）も同類の花である。大和の方は花が大きく深裂していて、分かれた花びらの部分がさらに細裂している



陸あがり イソギンチャクの 花になり

のに対して、唐の方は深裂や細裂が浅く花全体が丸みを帯びている。秋の七草の一つで、山上憶良が万葉集に「萩の花 尾花葛花 なでしこの花をみなへし また藤袴 朝顔の花」と詠んでいる。朝顔の花は桔梗のことである。



ひとがた

人形に見える気もして 桔梗花

キキョウ科の花で、秋の七草の一つである。根がサポニンを含むため生薬の原料となる。韓国ではトラジと呼ばれていて、その根が料理に使われたりする。花の形から「桔梗紋」の家紋が生まれて、土岐（とき）一族の明智光秀の家紋でもある。



朝の陽の 照明ランプ 桔梗花

花の形を見ていると、頭があり、両腕、両脚を伸ばした人形を連想する。花が開く前には蕾が風船の形をしていて、これから英名“balloon flower”がつけられている。半開きの時には陽の当たり具合で照明ランプのようにも見える。



開きたり 虞美人草の パラシュート

ヨーロッパが原産で江戸時代の渡来花。ケシ科の花で、科名を表す学名のペパベル (Papaver) は、ラテン語の「papa (幼児に与えるお粥 (かゆ))」からきている。Papa の言葉から父に関係して語られる花でもある。フランスではコクリコ



暑き夏  
コクリコ炎  
蜂を焼き

の名で呼ばれており、与謝野晶子の歌の一節に「君も雛罌粟 (コクリコ) 我も雛罌粟」がある。花卉は薄く、紙のように見えることがある。虞美人草はこの花の別名で、項羽の愛した虞妃 (ぐき) に因んでつけられた名前である。



ヒヤシンス ギリシャの悲話が 花の名に

この花の名はギリシャ神話に由来する。美青年ヒュアキントスと同性愛者のアポロン（アポロンの場合は両性愛者）、風の神ゼプロスの三角関係からヒュアキントスが命を落とし、その流れた血から生まれた花というのである。ユリ科の花で日



渡来花 和名に直して ふうしんし 風信子

本にはフランスからチューリップと共にもたらされ、「風信子」、「飛信子」の和名がある。意味は花の香りが風で飛んでくるところからつけられていて、「シンス」を「信子」で、それに風で飛ぶ様の漢字を当てはめたのだろう。



オダマキの 地上に浮かぶ くらげかな

苧環（おだまき）は元々機織の糸を巻いたものを指していて、形が似ていることから花の名前に転用された。しかし、元の苧環は見たことがない。キンボウゲ科のオダマキ属の花の総称で、西洋オダマキも加わって多様である。花の外側に花弁の



オダマキは 石間住家か 顔を出し

ように見えるのは萼（がく）であって、花はその内側にある。西洋オダマキは背が高くて、花が空中に浮かんでいる様子は、海中に漂う生物を連想させる。オダマキは繁殖力のある花のようで、おやっと思うところに入り込んで咲いている。



斑点が 下着にも見え 花の内

ゴマノハグサ科の二年草である。ここで二年草とは種子が成長してそれが種子を残して枯死するまでの期間が一年以上二年以内のものをいう。強心剤の薬効を持つ薬用植物である一方、きれいな花をつけるので園芸用としても栽培されていてポ



ジ  
ギ  
タ  
リ  
ス  
  
デ  
ジ  
タ  
ル  
機  
器  
の  
  
ネ  
ー  
ミ  
ン  
グ

ピュラーな花でもある。袋状の花の内側に斑点模様がみられ、下着がチラッと見えるような感じもする。英語のジギタリスのスペルは Digitalis で、スペルからは最近のデジタル (Digital) 用語のひとつと間違えそうである。



並ぶ花 鯛釣り草の ちょうか 釣果なり

中国原産のケシ科の花で「けまん草」の別名がある。ここで「けまん（華鬘）」とは仏前の飾る花輪のことである。鯛釣草とはうまいネーミングで、確かに鯛が釣竿に鈴なりになっているのを連想させる。タイツリソウはコマクサ属の花なので



イメージが 花の名になり 鯛釣草

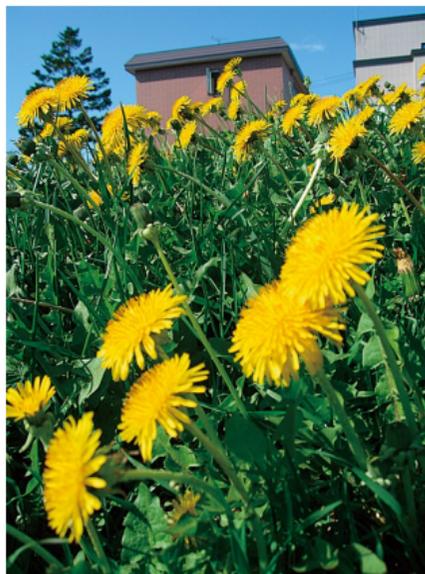
コマクサ（駒草）に似ている。コマクサの方は日本原産で、花が駒（馬）の顔に似ていることからネーミングがなされている。コマクサは「高山植物の女王」といわれているけれど、タイツリソウの位は平民程度ではなかろうか。





タンポポは 強き花なり 空き地埋め

繁殖力の強いキク科の花である。春先に咲き出し、庭にあるタンポポなら種の飛ばないうちに取り除かないと、庭中がタンポポで埋め尽くされる。放って置かれた空き地などがタンポポ広場になっていたりする。その生命力の強さのせいか生



これからが  
花の季節と  
黄<sup>き</sup>を競<sup>きそ</sup>い

薬の蒲公英（ほこうえい）として利用されていて、タンポポの別名となっている。ヨーロッパではサラダとして食用に供されたり、根をコーヒーの代用にしたりする。日本には在来種と外来種があり、同じ場所でせめぎ合っていたりする。



住宅地 護岸和らげ 芝桜

桜と名前がついていて、確かに五弁の花の形は桜花に似ている。ハナシノブ科の花で色は多岐にわたる。滝上町の十万㎡の芝桜公園のように、北海道には大規模な芝桜の見所がある。札幌でも公園以外にも空き地や個人の庭にも春から初夏にか



人止まり  
時間止まりで  
芝桜

けて芝桜の絨毯を目にする。景観を演出する花としては最も適した花のようである。見事な芝桜を見つけて眺めると、しばし時間が流れるのを忘れる。四弁や六弁の幸福の芝桜なんかを探し出すとそこで時間は止まってしまう。



デザインは  
雪の六晶  
チューリップ

色合わせ 赤白黄色 滝野の地

春になると辺りにこの花が咲き出すのを目にする。花の名前はオスマン朝トルコからヨーロッパに伝わった時、誤ってチュルバン（ターバン）と呼ばれたためといわれている。道内にはチューリップを大規模に植えて観光資源にしているとこ

ろを見かける。札幌郊外の滝野すずらん丘陵公園もその一つで、よくまあこれだけ植え込んだものだと思えるチューリップ畑が広がっている。チューリップはオランダ旅行の土産品にもなっていて、庭に植えると外国が身近に感じられる。



花重く 庭の牡丹の お辞儀して

雪国ではこの花には手がかかる。雪囲いを怠ると雪の重みで牡丹の木が折れたり、地面に這ったりするためである。しかし、雪囲いもせず冬を越させても横に這った枝木に花をつける。牡丹花は、花の重みも加わってお辞儀をしているようにも見え



牡丹花  
明治はいかに  
清華亭

る。牡丹は個人の庭よりは庭園と呼ばれるところに似つかわしいようである。札幌市内に明治の昔、借楽園と呼ばれた庭園があり、庭園の隅にあって現存する清華亭の庭に咲いている牡丹を見ると、明治の昔はどんなであったかと思ってみる。



ヒマワリは カメラ背を向け 知らぬ顔

ヒマワリは北アメリカが原産地で、新大陸発見と共に種子がスペインにもたらされ、スペインからヨーロッパ各地に広まった。個人の家の庭にヒマワリが一本立っていたりすると目立つ花である。これが集団になったヒマワリ畑は壮観であ



目を真似て  
花卉はコロナ  
内光球

る。北海道の北竜町のヒマワリ畑は有名で、よく写真の被写体になる景観である。札幌の近郊にもヒマワリ畑を見ることができる。ソフィア・ローレンが演じた映画「ひまわり」にもヒマワリ畑が出てきたのをかすかな記憶に留めている。



びと  
ローマ人 癒しの香り 湯に込めて

このシソ科のハーブを代表する植物は、ローマ人が入浴時にラベンダー湯に入れる習慣があったことから、「洗う」という意味のラテン語から名前が採られたといわれている。冷涼で乾燥した気候に適していて、北海道各地にラベンダー畑があ



しじゅうたん  
人工のモエレ山見て 紫絨毯

る。札幌市東区にある田園テーマパークの「サッポロさとらんど」でラベンダーの広い畑を見ることができる。このテーマパークに隣接してモエレ沼公園があり、人工のモエレ山の三角形をラベンダー畑越しに望むことができる。



百合が原 シンボルの花 揃い咲き

札幌市北区に24 haの「百合が原公園」があり、園内には種々のユリが植栽されている。ユリは種類が多いのでユリの花とわかって、何ユリなのかは判然としない。同公園にユリ畑のようにして植えられていた橙色の大柄なユリは、北海道原産のエゾ



あけにしき

明錦 エゾスカシユリ 姿似て

スカシユリに似ているので、その改良種なのかと推測してみる。このユリには“明錦（あけにしき）”の名前がついていて、ユリ愛好家にはよく知られているようだ。「カサブランカ」と聞いて映画よりユリを連想すれば、それはユリ愛好家である。



清流と ガクアジサイを また 跨ぎ行き

一般にアジサイ（紫陽花）と呼ばれる花はガクアジサイの改良種か渡来種のセイヨウアジサイである。ガクアジサイは花弁のように見える装飾花部分が本来の花の部分を額縁のように囲んでいることから命名されていて、普通のアジサイはこの



道遠し ぬのじき 布敷の滝 花休み

装飾花が全体に広がっている。札幌西区の平和の滝に手稲山への登山道の入口があって、ここから途中にある布敷（ぬのじき）の滝まで歩いたとき、途中の溪流で自生したものと思われるガクアジサイを見つけ、しばし足を止めて観察した。



葉かきわけ 顔を出したり ヒツジグサ

都会の池には景観上の配慮からも睡蓮が植栽されている例が多い。写真の道庁の庭にある池や、「サッポロさとらんど」の「さとの池」の睡蓮の写真を取ったことがある。さとの池は睡蓮を見に行ったのではなく、絶滅危惧種の「カラカネイト



イトトンボ 探す目に入る 睡蓮花

トンボ」を探しにいて目に入っている。睡蓮と間違えられ易い蓮は水面から上に伸びた茎に花をつける。睡蓮の方は花が水面に浮かぶように咲く。睡蓮の和名は「ヒツジグサ」で、これは午後の未の刻の頃、花が開くことから命名されている。



あかねいろ  
ゼラニウム 赤白混ぜて 茜色

窓の外の景色は季節で変わる。それも同じ場所とは思えないくらいの変り様である。窓の棚に置かれた草花もこの変わり様には驚かされるだろう。遠くから朝日が建物を茜色に染めて一日が始まる頃、それを窓越しに眺めている様子 of ゼラニウム



迫る白 鉢の緑が 押しとどめ

ウムの花の赤と白を混ぜ合わせると茜色に近づくのだろうか、と試してみる。茜色に変わる街を見た窓が、雪の多い年には白で覆われるようになる。窓際の鉢植えの草花の緑が、かろうじてこの雪の白の猛威をガラス越しに押し止めている。



もみじ  
デザインの紅葉と鮭に桜添い



桜並木は市民に自然のすばらしさを満喫させてくれる都市の舞台装置である。特に流れと桜の相性が良く、川と組み合わせさせた桜並木はお互いを引き立て合っている。札幌の川は灌漑用の直線状のものが多く、その土手道の桜並木は、並木が遠くまで続いている様子を一望にできて見事である。そのような桜並木として軽川（がるがわ）の桜並木がある。この川幅でと思える狭い川に、秋になると遡る鮭と、逆に流れ下る紅葉葉と一緒にデザインされた飾りを、本物の桜がバックアップしている。

がるがわ おうてい  
軽川の桜堤広く 川狭く





軽川の傍に中の川が流れている。手稲稲積公園の近くを流れ、軽川と合流して新川に注ぐ。この川も直線状の川で土手道には若い桜が植栽されており、もう少し年月が経つと見事な桜並木になりそうである。手稲のこの辺りは住宅地で大きなビルも目立たず、遠くの手稲山とそれに連なる山々が目の前に広がっている。桜の季節、手稲山には雪が残っていて、山頂は未だ冬である。中の川の川岸の緑も桜花に遅れまじとその濃さを増して、緑、桜色、雪の白、空の青がこの季節の基調色となる。

中の川 手稲に雪見て 桜愛<sup>め</sup>で



北国は 桜と緑 連れ添って





## 記念とは 創建百年 八重咲けり

この公園は札幌市創建百年記念事業の一つとして造成されている。公園は中央区界川の小高いところにあり、札幌市内が一望にできる。春先の早朝、イタリアテラス式階段から見下ろすと、桜やツツジの植栽が濃くなってきた緑に囲まれて見え



## 早朝で イタリアテラス 人のなし

る。その先にはこれから本格的な一日の活動が始まろうとしている大都会が朝の霞んだ大気の中にある。園内では見事な八重桜を観賞できる。八重桜が咲く頃は他の木々の緑も濃くなっていて、北国の春の最盛期である。



野幌森林公園は札幌、江別、北広島の三市にまたがる約二千haの広さを持つ道立自然公園である。瑞穂（みずほ）の池は元々灌漑用に造られた。今は森林公園の遊歩道の中継点になっていて市民の憩いの場を提供している。春には水芭蕉や桜、秋には紅葉を楽しめるスポットである。池の近くに桜の木があって、写真を撮るために訪れたと思われる人が飽かず写真を撮り続けている。周囲の木立も緑が戻ってきた時期で、淡い緑と桜色がこれから始まる色の濃い季節の前触れである。

繰り返し 写真撮る人 遠く見え

おうき                      みずほ                      みずも  
桜季には 瑞穂の池の 水面見え





ロープウェイ 桜が迎え 山頂に

藻岩山はスキーの季節が一段落すると夏の観光の季節に入る。本格的な観光の季節前の助走期間として、五月に入ればロープウェイ駅の周辺は桜が見頃となる。ロープウェイ駅に続く桜並木は、ロープウェイの利用者のガイド役のようにも見



藻岩山 道のガイドは 桜花

える。この山の高さが531mあることから、五月三十一日は藻岩山の日と定められていて、この日の夜から登山を開始し、翌日の六月一日の山開きの日に山頂でご来光を仰ぐ行事が若者の間で受け継がれていて、毎年ニュースにも取り上げられる。



琴似発寒川は上流では西区の平和と西野、下って西野と福井、さらに西野と山の手の間となっていて、山の手から西野には山の手橋で入る。この橋から上流に向かって発寒川緑地が造成されている。雪解けが始まるのにつれて緑地の緑が回復し、琴似発寒川の水流量も増してくる。緑地は住宅街に隣接しており、車道も無いので、遊歩道に沿って植えられている桜並木をのんびりと見ながら歩いて行ける。雪解けで水かさが増した琴似発寒川にも目を移しながら、景観を楽しめる桜の並木道である。

発寒川 流れ雪解け 春桜



発寒の 春のパノラマ 淡き色





## 窓の外 雪降ったかと 白桜

ソメイヨシノの名の由来は、江戸時代染井村で造園師が育てた桜を吉野桜として売り出したため、染井吉野と呼ばれるようになったことによる。花が咲くとき葉が出ず、枝いっぱい白い花をつける豪華な桜であることから、日本各地で植えら



## 幹に咲く 桜の散りて 被り物

れ最も広まった品種である。実際、この桜が満開の頃は窓の外が明るく感じられ、雪が降ったかと錯覚するほどである。太い幹に小さな枝が伸び、そこにも花をつけていたりする。花が風で散る様は本当に桜吹雪の言葉通りである。

青色に  
負けじ押し出す  
桜色



咲き順は まず山桜 ほころびて

桜は大まかに開花期で分類している。春になりまず花をつけるのが山桜。次にソメイヨシノが咲いて、最後に八重桜となる。この咲き順で本当に桜の種類分けができていいのか心もとない。色形でいうと、ソメイヨシノは白い五弁の花、八重桜

は花びらが重なっていて桃色、その他は山桜とこちらも大雑把な分け方をしている。春の到来は庭の山桜で確定的になる。どこからやって来たのか知らない桜木が、春空の青に負けじと押し出すような花の桜色は見事である。



八重桜 九重無くて 匂いたり

野生の山桜に対して八重桜は人の住む里の桜という意味で里桜とも呼ばれる。重なり合っている花の様子が牡丹に似ていることから牡丹桜の別名もある。百人一首に「いにしへの 奈良の都の 八重桜 けふここのへ(今日九重)に にはい(匂い)ぬるかな」と詠まれていて、八重桜は宮中(門が九重に造られていた)全体に植栽されていて、その匂いが到るところに漂っていたようである。我が家の庭は当然ながら門なんかも無く、八重桜の匂いは道路に拡散するだけである。

桜咲く 順序確かめ 屋根の窓





## 八重越しに 我が家の屋根の 遠く見え

西野の山裾に住んでいて、少し山に向かって歩いたところに果樹園が造成中である。毎年さくらんぼ、梅、プラムなどの木が植えられるなかに桜の木も混じっている。植えられた八重桜の向こうに我が家の屋根も認められる。それにしても山を



## 新果樹園 歳々年々 花木増え

切り開いて果樹園にすると同じく、西野の地も住宅の造成が進んで、もう広い畑地も空き地も見られなくなっている。そこに住んでいる人は「年々歳々人同じからず」としても、花も「歳々年々花相似たり」でもないようである。

黄葉の  
シェードの下で  
光る秋



都心に植物園を持っている札幌市民は、お金さえ払えば（入園料が少々高いのではないかと思う点もあるけれど）自然と学術の世界の関わりを見ることができる恩恵に浴している。北大植物園は木の芽が芽吹く春と、葉が一年の決算を迎えて色づく



取りまく木 晴れ着姿に 場所を空け

秋が見せ場を作る。紅葉や黄葉が盛りの日には秋の陽光が降り注ぐと、木々が光り輝く表現そのものとなる。葉の下から空を見上げると、色のついたシェードの下に居るようである。離れては晴れ着姿にも見え、色づかない木々は場所を譲っているようである。



### 珍しく 歩道に人なし 学びの府

今や札幌の秋限定名所のトップに躍り出た感のある並木道で、北大の北十三条門から工学部前までの350m程度の通りの両側にイチョウの大木が並んでいる。秋、これらのイチョウが黄葉に色づく、この並木道には市民や観光客が訪れ写真を撮る。

### 学生時 止まり見上げた 記憶なし

撮り銀杏を拾う姿が目立つ。学生の頃当然ながらこの並木道を歩いていただけ、イチョウの黄葉がこれほど見事であった記憶はない。その頃は並木道の突き当たりにある工学部の建物は木造二階建てで白亜館と呼ばれていた。

この景色  
見る人も無し  
一人占め



西区の西野と宮の沢の住宅地に挟まれるようにしてあるこの公園は、遊歩道が整備されていて、雪の無い季節の朝は日課のようにして歩く人を見かける。遊歩道が主体であるため、公園内に特別な施設がある訳でもなく、人で混み合うことはな



犬は地に 人は木の葉に 泳がす目

い。紅葉の季節の早朝この公園内を歩いてみると、大都会のすぐ傍にこれほど秋を満喫させてくれる場所があったかと感嘆する。時たま犬を散歩させている人が居て、人目もなく、つなぎ紐から放した犬が紅葉を背にして走り寄ってくる。



溶岩の 飛び散ったかと カメラ向け

秋の日々の散歩は、紅葉の移り変わりを評価しながらとなる。特に早朝は赤みを帯びる朝日が紅葉を一層際立たせる。家の壁色が赤くて、その庭木の紅葉が陽の光で赤く輝くと、木の葉というより溶岩が飛び散ったようにも見える。「紅葉は二



早き朝  
紅葉撮る影  
地に長く

月の花より紅なり」とは本当であると実感する。桜の木は春ばかり注目が集まるけれど、秋もその紅葉が楽しめる。住宅街の街路樹も紅葉が始まり、人影のない道に写真を撮る自分の影が、早朝の低い陽で長く伸びて写る。

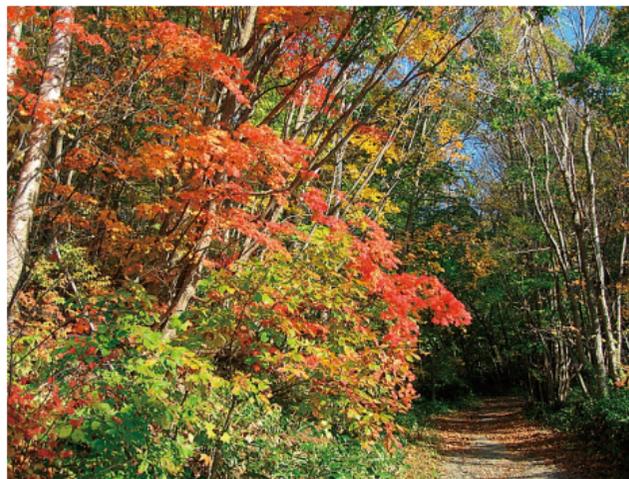


紅葉の上に橋あり テクノパーク

厚別区下野幌にあるIT企業団地である札幌テクノパークはその名の通り公園の雰囲気がある。これは野幌森林公園に隣接した丘陵を企業団地として開発する際、周囲の自然環境を生かすコンセプトに従ったためである。テクノパークの入口の

紅葉は <sup>あいてい</sup> IT企業の盛衰見

ポンノッポロ橋の下を流れる小野幌川の周囲の緑地は、秋には紅葉で彩られ、遊歩道もある。しかし、仕事が忙しいためもあってか、橋のかなり下の遊歩道まで散策にくる団地内企業の社員の姿を見かけることはほとんどない。



### 遊歩道 誘う紅葉 落ち葉道

著者のオフィスが札幌テクノパークにあるビルの中であることも手伝って、時々テクノパークに隣接する森林公園の遊歩道を歩くことがあった。樹種が混在しているせいか紅葉の季節には早く色づく木もあれば、いつまでも緑の葉を残している



### 敏感に 秋の流行 一番手

木もある。いち早く紅葉に衣替えした木は、周囲から飛び出して見える。ところどころに紅葉した木があると、手招きされているようで、知らず知らずのうちに遊歩道の先へ先へと踏み込んで、気がつくと広大な公園の奥に入り込んでいます。



窓テレビ <sup>うっ</sup>映りの良さと 大画面

窓の外の風景を、テレビ画像を視ていると錯覚しそうになる時がある。窓枠がテレビの枠のように見えて、写真に撮った窓枠の処理をうまく行くと、これはもうテレビ画面を撮っているようである。それも高解像度の大きな画面である。庭にある紅



アンテナが 受けた画面は 窓の外

葉（もみじ）と沙羅双樹が、秋は自分達の出番とばかり、蕁の葉がまだ青々としているのに早々と紅葉を誇示している。ソメイヨシノも黄葉を窓の画面いっぱいに見せ、BSのアンテナで受けたテレビ画面かとさえ思ってしまう。



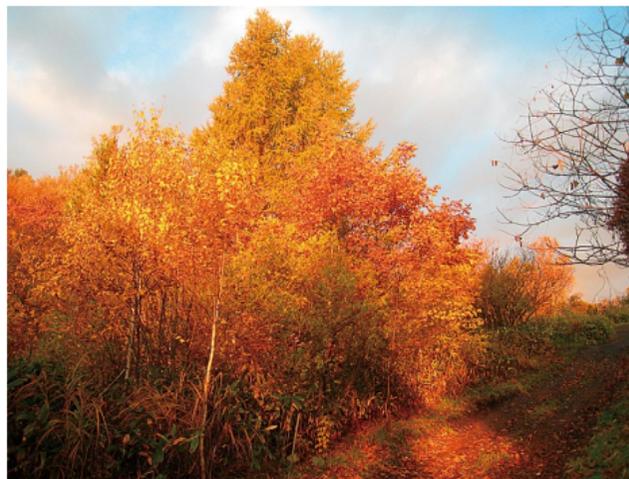
ほお  
朴の木の 落ち葉嫌われ LLサイズ

秋に色が変わる葉で、お世辞にもきれいだと言えない木がある。朴の木の葉がそれである。夏は大きな葉が青々としていて、白い花も良い匂いを放つのに、落ち葉になる頃の葉の色が褐色でよくない。落ちた後も LL サイズの葉が地面に散らば



あきほのお  
迫る火の 家にかかるや 秋 炎

り、その始末に手間がかかる。地中に埋めても、一年経っても腐らずに出てきたりする。これに対して、紅葉や黄葉に輝くものは、炎となって家に迫るといえども、嫌われることはない。地面に散った落ち葉も観賞に耐え得る見事なものである。



この季節 普段着景色 こがね 黄金織り

黄葉と紅葉、どちらもすばらしい。しかし、秋の色としては黄葉の方が半歩勝っていると思っている。紅葉は火を連想させるが、黄葉は黄金色に輝き、豊かさの象徴の色でもあるからである。普段はほとんど目もくれない雑木林が、秋の到来で



見つけたり 金鉾脈の 地表に出

黄金色に輝くのをみると、普段着から黄金の衣をまとったように見える。近づいて一枚一枚の葉を確かめても金箔を施したようにも見えてくる。すばらしい黄葉をみつけると、山師が金の鉾脈を見つけたような気分になる。



## 一夏の 記憶を土に 戻しけり

木の葉は移動しない木の同じ枝に、春から秋にかけて留まっているとしても、色々な事に出会っただろう。木の芽を出したら、時期遅れの雪が降ったかもしれない。春は他の葉と競争して陽の光をもっと得ようと努力しただろう。夏の暑さにも耐



## 落ち葉踏む 足に伝わる 過ぎた四季

え、台風の際には強風に煽られながら必死に枝にしがみついていた。秋が深まれば、一枚また一枚と色づいて地に落ちてゆく仲間を見つめ、やがて自分の番を迎えよう。そんな落ち葉の記憶が足元から伝わってくるようである。



こぶし咲く <sup>けいてき</sup> 恵迪の森 寮ありて

札幌の都市秘境の取材で、かつて生活したことのある恵迪寮が建っていたところに行ってみた。原始林に隣接した寮のあったところは野球場になっていて、寮の玄関あたりと思われるところには立ち木と雑草があるだけである。この松の木は



こぶし花 春告げ一番 原始林

玄関の近くにあった松の木だろうか、と昔を思い出そうとしても、半世紀近くにもなると寮の周囲の記憶は忘却の海の底である。季節は春先で、こぶしの花が緑を増した木々と青空とをバックに春一番の木花の心意気を示していた。



倒れても 命つないで 原始より

2004年秋の風台風は北大構内のエルムの老木をへし折り、ポプラ並木を倒壊させ、原始林の大木もなぎ倒した。到来した冬には根を地上にむき出した木々に雪が積もっていた。構内の他の場所の倒れた木は二、三年のうちに整理されたけれど、



字義通り 朽ちるにまかせ 原始林

原始林の木は倒れたままにされていた。原始林とは人手を加えない林や森であるという字義を守ろうとすれば、自然災害で倒れた樹木はそのまましておくしかない。しかし、北大構内の原始林は年毎に確実に姿を小さくしていつている。



枝の先 花行き場なく溜りたり<sup>たま</sup>

枝を払った梅の木では、花がつく枝先が無いと、幹や枝の太い部分に直に花が咲いているのみかける。まるで花の行き場がなくて、幹部分に溜まって咲いているように見える。庭に移植した梅の木は、冬の間に屋根から落ちる雪ですっかり



折れ幹に  
梅の花五六  
春息吹

枝がへし折られてしまって、花の咲く枝がない。春先に幹の部分にかろうじて花が五、六ほど張り付いて咲いていた。しかし、枝がないと葉も茂ることもなく、この梅は枯死してしまい、咲いた花は最後の花となってしまった。

アトリウム  
眺める公園  
冬景色



屯田兵の生みの親と称される第二代北海道庁官  
永山武四郎の旧邸も取り込んで永山記念公園があ  
る。旧邸は無料で開放されている。商業施設のサ  
ポロファクトリーがこの公園に隣接して建って  
いて、公園から見るとこの施設のアトリウムが大き



温室を 出されたように ツツジ咲き

な温室のように見える。冬の公園は雪で埋まっ  
て、葉を落とした樹木が公園内にひっそりと  
立っている。春になるとこの公園はツツジが見  
事で、あたかもアトリウムの温室から出されて  
咲いているかのようにも見える。



噴水が 目に入る頃は <sup>い</sup>ライラックの花

ライラックはモクセイ科のハシドイ属の木で、和名はムラサキハシドイで、札幌市の木にも選定されている。北大の植物園には札幌最古のライラックの木が生きて保存されている。札幌では桜の季節に続いてライラックの季節が始まり、五月



ライラックは 天神山を 覆いたり

中旬から花をつけ、大通り公園のライラックの木が芳香を放っている。下旬には札幌ライラック祭りも始まる。この季節、札幌はライラックの花が主役で、天神山緑地その他の公園にはどこかに必ずこの木花を見つることができる。



岩場の木 どこから水得る 不思議なり

豊平峡ダムは札幌市の水ガメであると同時に行楽の地でもある。周囲の環境保全を考慮してダムサイトまでは電気自動車に乗り換えてゆく。このダムサイトの奥まったところにある「ひふみひなめ」展示館については「札幌秘境100選」に採



島一つ 天涯孤独の 白樺木

録してある。この展示館の窓からダム湖の奥の方に岩島が水面から飛び出しているのが見え、その上に多分白樺と思われる木が一本あるのが印象的であった。島の周りには水があっても、岩場の木がどのようにして水を得るのか不思議だった。



球団の 黒いロゴ見え リンゴの実

豊平区美園の環状通を通ると、車道の分離帯にリンゴの並木があり、秋にはリンゴがたわわに実をつける。大都会のこんなに交通の激しいところに帯状の果樹園もどきが広がるとは、札幌の景観としてもっと売り出せるのではないかと思ってい



赤信号 視線リンゴの 赤い実に

る。車を留めてこのリンゴを見ると、プロ野球の北海道日本ハムファイターズやサッカーのコンサドーレのキャラクターやロゴのシールが貼られているものがある。シールを剥がすと絵や文字がリンゴの表面に白く浮き出る工夫である。



輝きは <sup>こ</sup>木の間の隙間 <sup>あな</sup>穴一つ

早朝の散歩で、木の間から隠れたり顔を出したりして昇ってくる太陽を見ると一日の始まりを実感する。早朝の散歩道で人に会うこともないので、朝日がこの日の最初に出会う人のようにも感じられる。木の葉が未だ茂っている時には昇る朝



寒いわね  
白樺夫婦  
日の出待ち

日を写真で捕らえるには、重なる葉や枝の隙間のほんの穴一つのところにカメラの視線を合わせての撮影となる。木の葉が落ちる季節では、彼方の山際から上る太陽を捉えることができる。この時期になると早朝は流石に冷え込んでいる。

平成の  
名を冠するや  
新並木



陽傾き  
我が影伸びる  
並木横

北大創基 125 周年記念行事として、新しいポプラ並木を構内に育成しようと、2001 年の秋に 70 本のポプラの苗木の植樹が行われた。場所は第一農場の北西部の 300m にわたっており、丁度従来のポプラ並木と垂直方向に延びる配置になっていた

る。現在のポプラ並木から枝を取り、挿し木で育てた苗木で、20 年もすれば樹高が 20m にもなることである。2007 年に写真を撮りに行った時には、既に相当の高さの木に成長していたから、ポプラの生長は早いものである。

陽の低く  
影絵並木に  
凍る道



北大の景観のシンボルといえるポプラ並木は、2004年の秋に北海道を襲った風台風で半数近くが倒れている。根こそぎ倒れたポプラは元に戻す処置が取られているものもあるけれど、多くは代替りの若木で植え替えている。並木の片側はほとんど若木で、かつての聳え立つポプラで囲まれた並木道の面影は無い。雪の季節の朝、雪原となり広がる農場にあって、葉を落としたポプラの並木がシルエットで浮かぶ。観光客が目にするこくない名所の景観の冬の別の姿である。

名声は 片肺飛行 風倒後





たてや  
養蚕の研究建屋 最古なり

北大のキャンパスは1901年(明治34年)都心にある時計台周辺から現在の敷地に移転している。その時に建て替えられた校舎で最古のものがこの木造平屋建ての建物で、札幌農学校昆虫及養蚕学教室であった。国指定の有形文化財に指定さ



や  
学び舎は交流プラザ 今風に

れており、現在は「エルムの森」の愛称を持ち、北大訪問者への情報提供を行う交流プラザとして利用されている。今の時代、平屋建ての建築物が利用されるのは敷地等の余裕がなければできないことで、この点北大は恵まれているといえる。



見上げると セセッション風 幾何意匠

道内初の公立図書館として1926年に竣工している。幾何学意匠を用いたセセッション風デザインが採用され、外壁に重厚な柱が並んでいる。学生時代この建物の中で勉強したかすかな記憶がある。1967年からは三岸好太郎美術館となり、そ



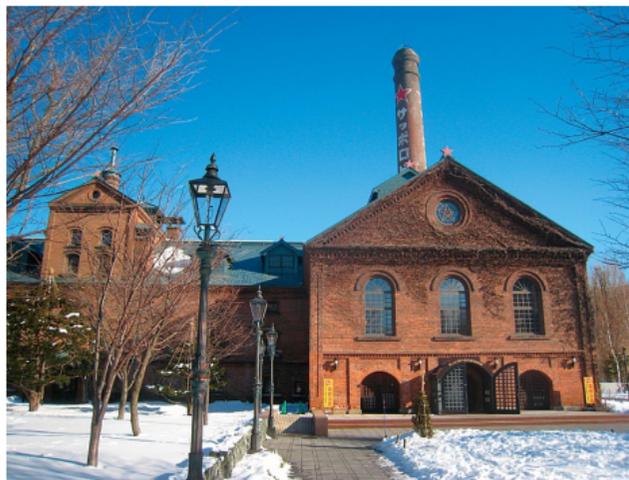
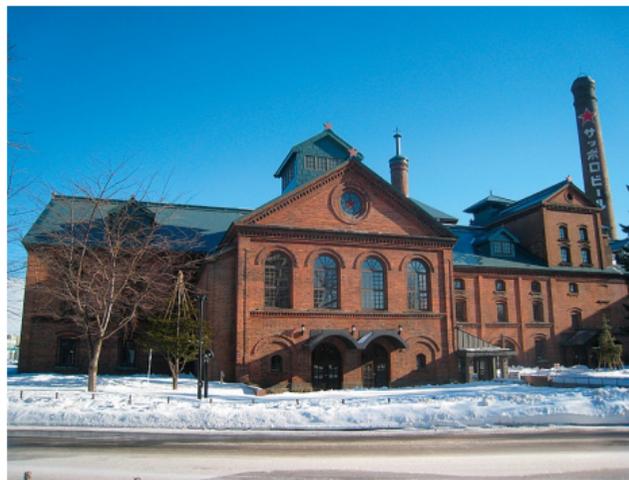
美術館 時代変わりて もんじょ 文書館

の後道立文書館別館になっている。文書館本館は旧北海道赤レンガ庁舎の中にある。この建物への入館には許可が必要であるけれど、観光の観点からは、赤レンガ庁舎から時計台への道の途中にあるこの建物への自由な出入りを検討すべきである。

## 73 サッポロビール博物館

(東区北7条東 10 丁目)

建物



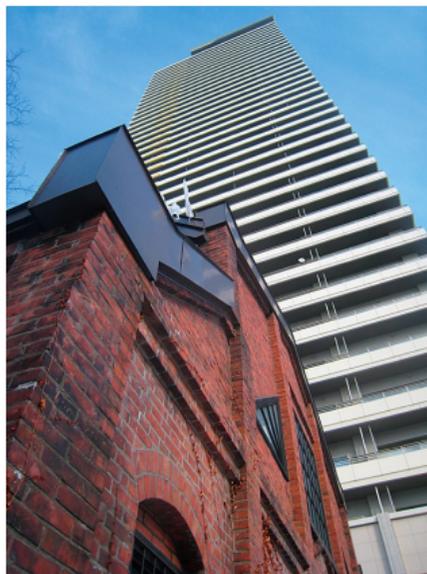
開拓使 麦酒に残す <sup>ごりょう</sup> 五稜星

日本で唯一のビールの博物館となっているこの建物は1890年(明治23年)に札幌製糖会社の工場として建てられたものであり、博物館としては1987年に開館している。サッポロビールは「開拓使麦酒醸造所」として始まっているので、開拓

ビール有り ジングスカンで ウェルカム

使のマークの五稜星が建物の装飾として目につく。館内には日本におけるビール産業の歴史が展示されていて、その立役者村橋久蔵の事跡や大きな煮沸窯を見ることができる。別棟はビールとジンギスカンが名物のレストランである。

建物も  
紅白合戦  
駅近く



## レンガ館 ラジオの電波 今伝え

JR 琴似駅北口地区にあるこの赤レンガの建物は1929年に日本食品製造合資会社（日食）の缶詰工場として建てられた。「日食コンカリーニョ」の名前のフリースペースで演劇活動に利用されていて、JR 琴似駅周辺の再開発で一時移転されていたものが

地上40階建てのマンションの完成に合わせて現在のところに戻されている。レンガ館には三角山放送局のスタジオが入っている。レンガ館から見上げる136mのマンションはさすがに高く、遠く離れた西野の我が家からも視界に入ってくる。

## 75 自衛隊サイロ隊舎

(南区陸上自衛隊真駒内駐屯地内)

建物



酪農の名残りの建屋 隊舎なり

現在の真駒内自衛隊駐屯地はかつては真駒内種畜場であったところである。戦後の1946年～1959年アメリカ軍がここをキャンプ・クロフォードと命名して駐屯し、その後自衛隊に移管している。種畜場であったことから1937年建築のサイロ付き牧舎



サイロから 雪のゲレンデ 確かめつ

が駐屯地内に残されていて、米軍がこれを下士官クラブ等に利用した。現在はサイロ隊舎の名称で、許可を得ると一般市民も展望台となっているサイロの屋上まで登って、目の前の藻岩山から遠く札幌の都心部まで見渡すことができる。



北海道神宮は札幌のイベントの原点にある。大晦日から新年にかけての初詣、春の花見、神輿の行列がある夏の例大祭、七五三の祝い、各種のお祓い行事等々と続く。札幌市民ならどこかのところでこれらのイベントにつき合ったり、神宮に関するニュースで季節感を更新する。最近、日中は外国人観光客も加わって賑わっているけれど、本殿の門が閉ざされる早朝は、静謐（せいひつ）の言葉が当てはまる。

境内に 朝日到らず 目覚め前



おおやしろ  
大社 桜並木が 色を添え





## 歴史道 突き当たる先 本願寺

地図を見ていると碁盤の目のように走る札幌の道路が、敷地に吸い込まれるように途切れて大きな建物が建っているところがある。北海道庁や東本願寺の例がそうで、これは札幌創建時に、一方は政治の、片方は宗教の中心として、この敷地の



## 雪国は 大屋根雪崩 気の張りが

配置になったのだろう。東本願寺は真宗大谷派札幌別院が正式名称で、1870年(明治3)年に札幌で布教を開始し、1892年には現本堂が落成している。雪の季節には本堂の大屋根からの落雪が問題で、大寺院の構造は雪国向きではないようだ。



## 北方の 自然教育 この威容

豊平川沿いの南区白川地区をドライブしていて偶然目にしたこの建物は、最初は何であるか見当がつかなかった。車を降りて確かめると、札幌市の条例に基づいて学校教育に自然観察の場を提供したり、教材としての生き物を育てて提供する目



## 人も居ず 監視カメラは 何映す

的をもった施設であった。自然の修飾語がつく施設にしては造りが豪華で、施設内には人よりは監視カメラが多い立派な昆虫の標本室があった。北方の自然が教材なのに南方の大型昆虫が幅を利かせて展示されていたのも印象的だった。



## 紙吹雪 降る予報有り ビルの壁

三越デパート札幌店前の交差点は札幌の商業地区のヘソのような位置にある。三越デパートのシンボルのライオン像は同店ができてからこの方、交差点を過ぎる人の群れを見守り続けている。札幌店は JR 駅と中島公園を結ぶ駅前の基幹道路に



## 史上初 局地なれども 大吹雪

沿ってあり、大きなパレードはこの通りを使うことが多い。2006年の「北海道日本ハムファイターズ」の日本一の優勝パレードもこの通りを通過した。同店の屋上から紙吹雪が舞い、オープンカーのヒルマン監督が手を振って応えていた。



暮れなずむ 歓楽街は ノリア下

歓楽街ススキノの商業施設「ノルベサ」の屋上には「ノリア」と命名された観覧車が設置された。ここで「ノルベサ」の名前はフランス語のノル（北）と北海道弁の「べさ」をつなぎ合わせた造語で、ノリアの方はスペイン語の観覧車を意味



きりん  
麒麟居て 賑わい加勢 ローリー卿

している。ノリアに乗って上から眺めるススキノは夕闇が迫っていて、これから始まる歓楽街の本領を示す時が到るのを待っている。暗くなると、麒麟のネオンが輝き、ウイスキーの宣伝のキャラクター「ローリー卿」が賑やかさに加勢する。



兵屋のとり残されて 異空間



屯田兵の語源は漢の武帝まで遡るので二千年以上の歴史がある。これに比べると、明治に始まる日本の屯田兵制度は歴史が浅く、短期間で終わっている。1874年(明治7年)琴似に開かれた屯田兵村に建てられた兵屋が琴似の繁華街から道一本奥まったところに保存されている。ポロ小屋にしか見えないものが大都会の中に佇(たたず)んでいるのを目にすると、異空間に紛れ込んだ感じさえする。八畳、六畳二間に土間のあるこの建物は、冬はさぞ寒かったことだろうと想像する。

板壁に 風吹きあたる 寒さかな





## 博物館 南極犬の タロも居て

この建物は北大の植物園内にあり、元々は1882年（明治15年）に札幌牧羊場内に建てられた札幌博物館である。木造の二階建てであるけれど、今見てもデザインに味がある。この博物館内には南極で生き残った樺太犬タロの剥製が陳列さ

## 園内に ドイツウヒと 博物館

れている。タロは同じく南極で生き延びた兄弟犬ジロと共に「南極物語」の映画の主人公にもなっている。建物の横には豊平川の流れを利用して動かした製粉器の石臼が展示されており、建物の近くにはドイツウヒの巨木がある。



立ち寄れば 雪に枯れ枝 清華亭

清華亭は北海道開拓使の貴賓接待所として1880年(明治13年)に建てられている。建物の周囲と飛び地のように少し離れたところにある偕楽園緑地が、札幌市の最初の公園である偕楽園の名残となっている。札幌市の「有形文化財」に指



ひっそりと 明治の記憶 今にあり

定されているこの建物の内には内村鑑三、新渡戸稲造、宮部金吾、有島武郎らの足跡に関するパネルが並んでいる。冬ふらりと立ち寄った時には、建物の周囲には雪が積もり、松の枯れ枝が無造作に落ちていて、周囲の殺風景さを増幅させていた。



屯田の父の住みたる屋敷なり

第二代北海道庁長官を務めた永山武四郎(1837～1904)は薩摩の国に生まれている。屯田兵司令官を歴任し、屯田兵の父ともいわれ、旭川に司令部のあった第7師団長にもなっている。永山邸は1880年頃私邸として建てられ、当時は平屋であっ



増築の部分昭和のモダン見せ

た。後に三菱合資会社買い取り、1937年建物の一部を解体して二階建ての建物を付け足している。肩書きのいかめしさと比較して、冬に見る屋敷は寒そうで、当時の生活の厳しさを思い起こさせる。北海道指定有形文化財である。



酪農の 記憶は雪に 閉ざされて

建物内には北海道の酪農の基礎を築いたエドウィン・ダンの業績が展示されている。ダンは1873年に来日して日本人の松田ツルと結婚し、1876年に札幌に転勤になっている。これから六年半を北海道で過ごすことになり、札幌の真駒内地



松の木に  
居候して  
桜花

区に牧草地と放牛場を整備し、搾乳場、乳製品加工工場等を造っている。記念館は冬期休館とのインターネットの案内にもかかわらず入館できた。記念館の横にあるオンコの木に桜が寄生して育て、オンコの木から桜の花が咲くのが名物となっている。



藻岩山 パゴダ見終わり 小熊邸

藻岩山のロープウェイの駅から、春先の山道を歩いてパゴダの平和記念塔まで登ったことがある。帰り道に寄ったのが北大農学部教授の小熊榎（おぐま まもる）の私邸を移築して喫茶店（ろいず珈琲館）として利用している建物だった。設計者は田

外は雪 内<sup>カフェ</sup>珈琲談義に 花の咲き

上義也（たのうえ よしや）である。昔の北大教授ともなれば、主が居なくなっても都市景観重要建築物になるほどの私邸を建てることができたのかと感心する。雪の中の珈琲館の店内では、珈琲談義から始まって客の話に花が咲いていた。



## 漢方は かくの如しと 蔵の家

札幌の都心にビルに囲まれ石蔵付きの木造二階建てのこの建物を目にする、一瞬タイムスリップに遭ったような気持ちになる。漢方薬店であることは看板からわかる。インターネットで調べると建物は1901年（明治34年）にできている。創



## 創業の 明治の文字も 薬効か

業にいたっては1872年（明治5年）というからもう136年続く老舗である。丸井今井デパートの筋向いにある建物で、デパートに買い物に行ったついでに写真を撮っている。ひやかしに店内を覗くのは老舗の威厳に押されてできなかった。



### 雪の中 明治もかくや 浅野邸

東本願寺の正面に突き当たる通りに面した木造平屋の建物で、冬期間は閉ざされているのか人の気配がない。建物の後ろに雪で埋まった庭園があり、そこにある立て札を読むと、正式には「浅野次郎右衛門邸」である。この人は1884年（明治



### 石蔵の家紋連想 忠臣蔵

17年) 富山県から来道して札幌で浅野組を興している。庭に接した石蔵に、丸に違いの鷹の羽の紋が見える。これは忠臣蔵の浅野家の家紋でもあるので、両浅野はつながっているのかも知れない。建物はさっぽろ文化百選にも選ばれている。



## 期待され ピリカコタンに 春と人

アイヌ語で美しい村を意味する「ピリカコタン」は南区小金湯にある「札幌市アイヌ文化交流センター」の別称である。アイヌ文化の展示がセンター館内と館外の庭にある。庭にあるものはアイヌ民族の住居である「チセ」や「プ」（倉庫）を復元



## チセあれど 住む人もなし コタン春

したもので、春先の行楽シーズン前ではここを訪れる人もなく、北国に巡って来た春の陽の中で来場者を待っているように建っている。近くを雪解け水で増水した豊平川が流れ、沢の小川には水芭蕉ややちぶきの花が見られる。



その昔 この家業なり 駄菓子買う

滝野すずらん丘陵公園に行くため道道 341 号線を走っていて、途中公園への入口を聞くため立ち寄ったのが田舎によくあった何でも屋である。店内に入るなり、半世紀昔の家業の、今で言えばコンビニエンスストアを思い出した。文房具、タバコ、雑誌、



指折れば もう半世紀 過ぎにけり

駄菓子、切手、何でもござれの母子家庭の店だった。同じような店が、都心を離れているとはいえ、札幌に忽然と現れたのは懐かしかった。道を聞いたこともあったので、目についた駄菓子を買って店を出て、振り返ってはまた見直した。



JR 札幌駅西コンコースの南口に安田侃（かん）の「妙夢」と題された白大理石の彫刻がある。安田は1945年に美唄市に生まれて、イタリア政府招待の留学生としてローマ・アカデミア美術学校で勉強している。安田の作品はイタリア産の白大理石を使った丸みのある造形に特徴があり、知事公館の庭の「意心帰」、中島公園の「相響」などがある。これらの作品名は意味が理解できないこともあり、場所指定に利用する場合などは作品名ではなく、「穴の空いた石」などの言い回しとなる。

穴の中 過ぎる姿に 夢の妙

場所指定 穴空き石と 便利なり





カラス居て 人まどろみて 牧歌像



JR札幌駅南口にある本郷新の「牧歌像」は初夏の季節が最も引き立って見える。雪の季節には裸体像は寒々としていて目をやるのも気が引ける。五月になると、青空と木々の薄緑色を混ぜ合わせるとブロンズ像の緑青色になるのかな、と色の仮想配合を行ってみる。像に止まっているカラスも像の一部のように見えてくる。駅前の激しい人の流れから少し隔たったベンチに腰掛けている人は、初夏の陽気の中でまどろんでいる。JRタワーをバックにして牧歌像は道都玄関の顔である。

パノラマに 牧歌像見え 道都初夏



鳥を抱く  
女迎えて  
画廊前



JR 札幌駅南口から延びる西三丁目の大通りに面して北三条の角に円筒形の大同生命ビルがある。このビルのらせん状階段を登っていくと、テラスが開けている。都会のど真中に人影の無いこんな空間があるのは驚きである。テラスには大同ギャラリーの入口があって、近くに本郷新の「鳥を抱く女」のブロンズ像がある。本郷新はこのモチーフの彫刻を色々形を変えながら制作している。本郷新記念館の前に置かれている「鳥の碑」もこの連作につながるものの一つであろう。

ビルの上 <sup>ひら</sup>空間開け 貸し画廊



異世界の  
男と女  
庭に居り



この美術館は2007年に(財)札幌市芸術文化財団に統合され、正式名称が「本郷新記念札幌彫刻美術館」になっている。館名にあるとおり本郷新の彫刻作品を展示している。庭にも本郷新の作品が設置されていて、こちらは無料で見ることができる。写真の「戦没学生記念像」や「堰(せき)」の裸婦像が並んで置かれている。「裸婦」、「砂」、「ライラック像のトルソー」などの作品もこの庭で見ることができる。道路を跨いで美術館と隣合わせで「本郷新記念館」があり、その庭にも本郷新の作品が置かれている。

彫刻も 芝生も迎え 美術館





かな  
住宅街 奏でる乙女 一人弾き



中央区宮の森の札幌彫刻美術館と別館の本郷新記念館に続く住宅地街の道が「宮の森モール～彫刻の道」として整備されたのが1988年で、これに合わせて本郷新の「奏でる乙女」のブロンズ像が、道の分かれるところの木の下に設置されている。道路は一部赤レンガを使って舗装され、住宅の赤レンガの塀と調和を保っている。この道は1989年に第四回札幌市都市景観賞を受賞している。受賞記念のプレートがブロンズ像の近くに設置されているけれど、文字は消えかかっている。

### 風化する 彫刻の道 景観賞





滑り台 道路断ち切り 巨匠の威



世界的彫刻家イサム・ノグチがブラック・スライド・マントラと名づけて札幌の大通り公園に置いた彫刻は、滑り台としても利用されている。彫刻名にもあるように黒い花崗岩を用いたのは、札幌の白雪との対比を考えてのことだった。この彫刻が置かれている場所は大通り西八丁目と九丁目の境で、大通りを南北に貫く道路はこの二つの丁目間には存在しない。巨匠の希望に従って、彫刻の設置希望の場所の道路を無くして、公園の芝生部分をつなげたためである。巨匠の威力恐るべしである。

巨匠の意 ビルに囲まれ 渦を巻く



子を守る  
母たちの居て  
ビルの影



1977年に開館したこの美術館はもう三十年間の歴史を刻んでいる。この美術館のイベントの「サマーミュージアム」でCG原画作成のホログラムを展示した思い出もある。建物の玄関のところに安田侃の「無可有」と題された奇妙な金属製の造形が目につく。庭に置かれた彫刻は無料で見て廻れ、本郷新の「嵐に向かう母子」や山内壮夫の「子を守る母たち」と題された彫刻がある。周囲のビルの影が庭を覆い、彫刻がこの影の中に入ると、写真を撮る際に光の加減に気を使う。

子を守る 母たち囲み 緑萌え





格子窓 分けたり緑 庭と部屋



道新文化教室の「身近な秘境を歩いてみよう」の講座が新しく始まって、その案内役で自著の「札幌秘境100選」に掲載されている都市秘境を対象に選んで、受講生と一緒に巡って歩いたことがある。知事公館も訪問先に含まれていて、公館の庭にある安田侃の「意心帰」、流政之の「サキモリ」、中村晋也の「残響」などを観賞した。この時知事公館が無料で開放されていることを知って内に入ってみた。緑色のカーペットの会議室の格子窓から見る公館の緑の庭が印象的だった。

は かしゆ  
緑映え 彫刻加趣の 知事公館



この博物館は2001年秋に北大創基125周年に合わせて創設されている。建物は元々理学部に属していて、北大の中では農学部と並んで格調の高い建物である。建物に入った正面に階段があり、二階に上るとアインシュタイン塔と呼ばれる部分があり、その名前の由来の説明が掲げられている。昔は廊下に研究活動に関連した色々なものが置かれて、狭くて暗い廊下だった記憶があるけれど、博物館に衣替えした現在は展示物が廊下にあるものの、すっきりした感じがする。

大晦日 見学者無く 博物館

伝統の 建物内に 知の遺産



史跡なり  
eシルクロードの  
ロゴありて



この言葉で表されるプロジェクトは、2000年の11月の韓国からの札幌IT産業視察団への対応にその端緒があり、2001年に本格的に開始されている。「サッポロバレー」発でアジアのIT先進都市を結んで、現代の交易路を開拓するのをこの言葉に込めている。2001年にJR札幌駅前に進出してきたビックカメラ・ビックピーカン店がこの理念を店の内装に取り入れた。プロジェクトが終了してもこの内装は残っていて、札幌の情報産業史の史跡のようにも思えてくる。

あいてい

IT店 eシルクロードの 文字の見え



## あとがき

前著『爪句@札幌&近郊百景』は2008年1月1日発行である。これは「北海道豆本 series1」となっていて、これから発行を続けていこうとしている豆本シリーズの第一巻目でもある。その豆本が書店の店頭には並べられて一ヶ月もしないうちに第二巻目の本著の原稿を、出版を受け持ってくれる「共同文化社」に持ち込んでいる。第一巻目から二巻目の準備期間の短さには理由がある。

前著は「爪句」という造語が示すように、著者としては新しいジャンルの創作活動の作品集であると位置づけている。加えて、豆本という自費出版ではあまり例を見ない、それもシリーズ化するという企画なので、新聞に取り上げてもらえるかと踏んでいた。実際発行された直後の昨年暮れには日新聞社の記者が取材してくれて、記事の掲載に太鼓判を押してくれた。

しかし、年が明けて同紙に最近「写真俳句」がはやっているという記事が出た。それから爪句の記事掲載の雲行きが怪しくなってきた、同じような内容なので（「爪句」の豆本出版とインターネットの「写真俳句」公開とは別の事柄であるとは思えるけれど）記事の掲載は先延ばしにする、という連絡が結果的には新聞掲載の断りの通告となってしまっているようである。

また、他紙でも電話取材や出向いての取材を受けたのにもかかわらず、その後記事が掲載されてはいない。そ

こで考え出した。新聞はこと言葉が関係するテーマになると極めて保守的な体質なのではなからうか。「爪句」なんていう造語を世の中に流すのに無意識の抵抗感を持っているのではなからうか。俳句という文芸ジャンルがあるのにもかかわらず、爪句などという言葉を使うことには拒否権を発動しているのかもしれない（「写真俳句」とか「写真五・七・五」の言葉は曲がりなりにも従来の「俳句」や「五・七・五」の言葉が組み込まれている）。

そうであれば（これは著者の思い込みであるとしても）この際早目に二集目の爪句集を出しておこう、それも無視されるなら三集目を、という気持ちの動きが本著の出版を早めた理由になっている。ついでに、爪句の言葉を認知してもらうためにも俳句結社ならぬ爪句結社も立ち上げてしまおう。もともと爪句の写真は都市秘境の取材に重なるところもあるので、結社名は「秘境」にしよう。したがって、著者の肩書きは爪句結社「秘境」社主にしよう。さらに俳号（爪号か）も必要かと、以前手紙の宛名に書かれていた「曲直」を使うことにして、本豆本の表紙の著者名にしている。

少し客観的になって考えてみれば、新聞に取り上げられなかったのは単に新聞社側の紙面の都合や話題性が低いとの判断によるのかもしれない。しかし、爪句に入れ込んでいる著者としては前述のような気持ちの動きがあった点を「あとがき」に書いておいて、著者の備忘の一部にしておきたい。それにしても仕事の動機が奈辺にあるのかは、他人には分からないところがあるものだと、自分の行動をみて感じている。

本著が出版される頃にはまた別のテーマの爪句集の企画が動いているはずである。それがまた豆本として出版されるかどうかは、前著ならびに本著の売れ行きにもよっている。本著の出版と宣伝を受け持っていた「共同文化社」を始め関係した方々、爪句の写真を撮りに行くに際して運転手役を務めてくれた妻、そして爪句の一集目から爪句に理解を示していただいた読者の方々に対して、ここにお礼の言葉を記しておく。

2008年1月末日に

追記：「あとがき」を書いた直後の1月31日の朝日新聞の夕刊に爪句の豆本に関する紹介記事が掲載された。この記事は直接の取材を受けていなかったこともあり、掲載された記事はかなり後になって目を通した。二月に入り北海道新聞の別の記者が改めて取材に訪れ、同紙の夕刊(2月8日)に「札幌圏百景豆本に」の見出しで爪句集の紹介記事が載り、新聞で紹介してもらった初期の目的が達成された。記事には、爪句集に採録したもので取材した記者が良いと思ったものと、著者がよいと思ったものの二句がならんで記事となっている。人によって爪句の面白さの捉え方が違っているのだ、と当然のことに気づかされた。

追記2：本著の校正時に毎日新聞朝刊(道内版、2月26日)に以前の取材記事が掲載された。「あとがき」に書いた状況が変わってきて、書き直したい気持ちもあるけれど、状況のメモとして残しておこうか、とそのままにしている。

著者：青木曲直（本名由直）

（あおき きょくちよく 1941 -）

北海道大学名誉教授、工学博士。1966年北大大学院修士修了、北大講師、助教授、教授を経て2005年定年退職。eシルクロード研究工房・房主（ぼうず）、爪句結社「秘境」主宰。北海道新聞文化賞、北海道文化賞、北海道科学技術賞。

北海道豆本 series2

## 爪句@札幌の花と木と家

都市秘境100選ブログ <http://hikyou.sakura.ne.jp/v2/>

---

2008年4月1日 初版発行

編著者 青木曲直（本名 由直）

発行 共同文化社 〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目  
TEL011-251-8078 FAX011-232-8228  
<http://www.iword.co.jp/kyodobunkasha>

印刷 株式会社アイワード

定価 400円（本体381円＋税）

---

© Aoki Yoshinao 2008 Printed in Japan.

ISBN 978-4-87739-143-0

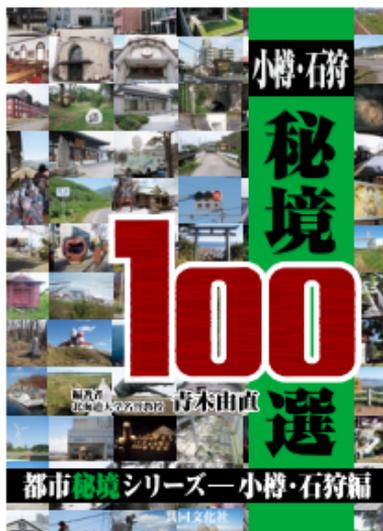
# 《共同文化社 既刊》



札幌秘境 100選 中国語版  
定価 400 円(税込) 日本語対訳付  
豆本 100 × 74mm 210P  
オールカラー 綴じ込み地図付  
(青木由直 編著 2007-9)



爪句@札幌&近郊百景  
定価 400 円 (税込)  
豆本 100 × 74mm 212P  
オールカラー  
(青木由直 著 2008-1)



都市秘境シリーズ  
小樽・石狩秘境 100選  
定価 1,000 円 (税込)  
A5判 224P オールカラー  
(青木由直 編著 2007-11)



9784877391430



1920092003811

ISBN978-4-87739-143-0  
C0092 ¥381E

共同文化社

定価: 本体381円 + 税

